



平成 22 年 12 月 20 日

仙台市長 奥山 恵美子 様

仙台市環境審議会
会長 佐藤 洋



仙台市地球温暖化対策推進計画の改定について【答申第 7 号】

平成 21 年 11 月 4 日付にて仙台市長より当審議会に諮問のありました仙台市地球温暖化対策推進計画の改定について、地球温暖化対策専門部会を設置するなどして慎重に審議検討を行った結果、結論を得ましたので、別添「仙台市地球温暖化対策推進計画の改定について」のとおり答申します。

今回の作業の重要な点は、深刻化する地球温暖化問題に対し、世界全体で 2050 年までに温室効果ガスを半減することが必要という国際社会の共通認識のもと、人類が何をなすべきか、様々な議論と努力が続けられている中で、仙台市がこの課題に主体的にどう取り組んでいくべきかを明らかにしていくことであります。そのため、杜の都環境プランの改定に係る審議で検討した内容を掘り下げ、温暖化対策のより具体的な方向を示すとともに、仙台の自然的社会的特性や環境意識の高い市民性等の観点から、仙台市が強力に推し進めるべき施策や事業を洗い出し、重点プロジェクトとして提案いたしました。

今後、本答申の内容を踏まえ計画の成案化を図り、都市全体のにぎわい・活力の創出と温室効果ガス削減の両方をもたらす政策・施策を着実に推進していくことを切に望みますが、この際、下記の点に留意いただくよう、答申の附帯意見として申し述べます。

記

- 1 地球温暖化問題に対しては、長期的視野を持って、継続的かつ着実にスピード感のある取り組みを実践していくことが重要であり、今後 10 年の積極的な政策・施策に加え、時にはその先を見越したより効果的かつ大胆な政策への転換の勇気も問われます。その要となる市は、常に、既成概念にとらわれない大胆な政策・施策についての議論を恐れず、困難でも市民とともに挑戦する価値があると認めるものについては果敢に挑戦する姿勢を示していただきたい。そして、市民・事業者等を惹きつける政策を打ち出し、利害関係者や納税者の理解を得て実現していくこと、及びそのための市長の力強いリーダーシップの発揮を期待します。
- 2 とりわけ、交通政策は、今後の仙台のまちづくりの中で大きな役割を持ち、そのあり様は温室効果ガスの削減だけでなく、暮らしや経済活動に大きな影響を与えます。二酸化炭素排出の少ない機能集約型の都市構造を目指す中、地下鉄東西線開業後の新しいまちづくりの土台として、引き続きハード・ソフト両面から、50 年後、100 年後に通ずる総合交通政策を追求する必要性があり、諸外国の先進事例も参考としながら、環境政策を基本に据えたより深い議論へと進化を図ることを期待します。



- 3 計画の PDCA サイクルで特に重要なことは「Check (点検)」「Action (見直し)」のための「評価」であり、その手法や仕組みを工夫するとともに、このサイクルの的確な運用による政策・施策の創造的な転換・改善が継続されることを期待します。また、施策や手法の中には、結果や成果を見通せない事柄も決して少なくなく、試行錯誤と経験を重ねることでレベルアップを図っていかざるを得ないものもあることから、小さな単位での社会実験を試み、その成果を他の場所、あるいは全体へ普及拡大するといった手法も積極的に採用されることを期待します。

- 4 掲げたプロジェクトの実施には困難を伴うことが予想されますが、市民・事業者等と協力し合い、苦労や喜びを分かち合う過程が協働の力を伸ばし、市民・事業者等の主体的な取組みの推進にもつながっていくと考えられることから、そうした努力によって困難を乗り越えていくことを期待します。また、プロジェクトの成果等については、他の地域へもしっかりと発信し、本市の役割・責務を果たすとともに、環境都市としての本市の名が広まることを期待します。